５年１組　社会科学習指導案

令和８年１１月１７日（火）第５校時　　５年１組教室　　指導者　白川　拓磨

１　単元名　情報をつくり、伝える

２　単元目標

○　放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解し、映像や新聞などの各種資料で調べてまとめることができる。（知識及び技能）

○　情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現することができる。（思考力、判断力、表現力等）

○　我が国の産業と情報との関わりについて、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりすることができる。（学びに向かう力、人間性等）

３　評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・　放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解している。 ・　映像や新聞などの各種資料で調べてまとめている。	・　情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現している。	・　我が国の産業と情報との関わりについて、主体的に学習計画を立てて問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。

4　単元計画（全８時間）

時		学習活動	NHK ONE for School の活用	評価基準・評価方法		
				知・技	思・判・表	主
1（本時）	なぜ、新聞社や放送局は信頼度の高い情報を発信することができるのだろうか？	課題を設定し、学習の見通しをもつ。 ・「ズームジャパン」を視聴して、番組や資料「年代別各メディアの信頼度」からメディアの中でも特に新聞とテレビの信頼度が高いことを捉えて単元の追究課題をつかむ。	・「ズームジャパン」『お祭りハシゴ事件！？～放送局の仕事～』を視聴して番組を起点に、課題を設定する。 ・一斉視聴して課題を共有する。			○ 発言・振り返りシート
2・3・4		情報を収集し、整理分析する。 ・教科書、資料集、NHK ONE for School のプレイリストを使って情報を集め、新聞社と放送局に共通する工夫や努力を整理する。	・「クリップ動画」を個別視聴して複数の情報源から情報を集めて整理する。	○ ロイロノート	○ ロイロノート	
5・6・7	どうすれば私たちも、信頼度の高い情報を発信することができるのだろうか？	学習内容をまとめる。 ・「アッ！とメディア～@media～」を視聴し、どのインタビュー映像を使うかについて考える。 ・メディアとの付き合い方を考えるために、新聞または番組を制作する。 ・「しまった！～情報活用スキルアップ～」を視聴し、割付や構成台本を作る。	・「アッ！とメディア～@media～」『送り手の意図を伝える～編集～』を視聴することで、学習の情報源として活用する。 ・「しまった！～情報活用スキルアップ～」を個別視聴して番組・新聞の作成に必要な情報を集める。		○ 番組・新聞記事	○ 発言・振り返りシート
8		学習の振り返りをする。 ・完成した新聞や番組を鑑賞し、良かった点や改善点を共有する。 ・単元の学習と課題への取り組みを関連付けて振り返りを行う。				

５　指導上の立場

（１）教材観

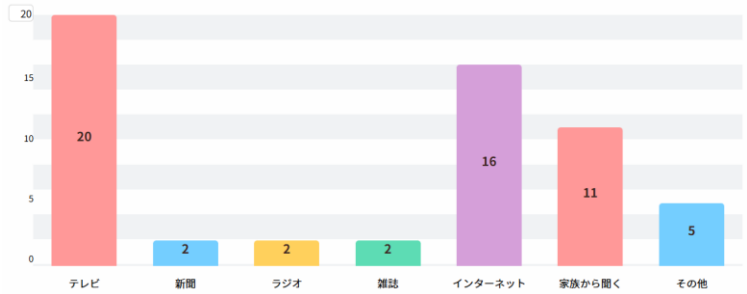
本単元は、小学校学習指導要領解説　社会編の第５学年の内容（４）ア（ア）「放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解すること。」及び、イ（ア）「情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子を捉え、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。」を受けて設定したものであり、「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」に区分される。放送、新聞などの産業の役割について理解することがねらいであるが、その際に単なる知識として理解するのではなく、情報を集め発信するまでの工夫や努力に着目して放送、新聞などの産業を捉えることが重要である。そのため本単元の学習は、多くの人の工夫や努力について把握できる教材だと考える。

（２）児童観

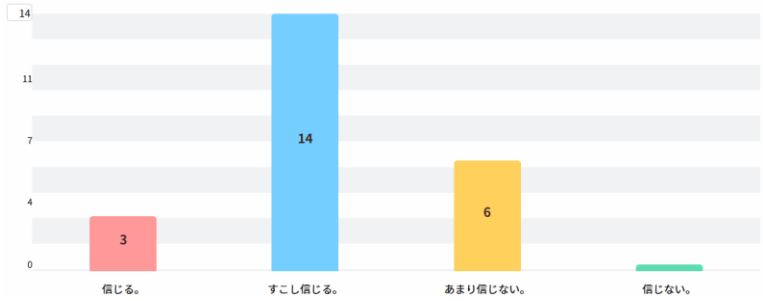
本学級の児童に対して本単元で学習する内容であるメディアに関するアンケートを実施した。結果は以下の通りである。

【メディアに関するアンケート】

質問１　ニュースや世の中の出来事を知るために、どのメディアを使いますか。



質問２　テレビやインターネットで知った情報をすぐに信じることがありますか。



質問３　あなたが一番「信頼できる」と思うメディアはどれですか？



メディアに関するアンケート結果から、児童が生活の中で多く使用するメディアはテレビとインターネットということが分かる。また、教科書で大きく取り上げられている新聞については児童の生活経験の中ではあまりなじみのないものであることも分析できる。質問２の回答結果からは、信じる群が過半数を占めていることが分かり、すぐに情報を信じてしまう傾向があることが分かる。

そこで、本単元を通して、情報の真偽や根拠を確かめながら活用する態度を育成し、これからの情報社会において必要となるメディアリテラシーを身に付けられるように指導していく。そして、児童が活用の目的に応じ、自らの判断で情報を適切に選択、発信しようとする態度を育てたい。

（３）指導観

本単元では探究学習（課題の設定、学習の計画、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現、振り返り）の授業形態を取り入れる。単元の導入において、年代別メディアごとの信頼度のデータから「なぜ、新聞社や放送局は信頼度の高い情報を発信することができるのだろうか。」という追究課題を設定することで児童の学習の原動力にする。第２時からは、教科書や資料集、NHK ONE for School などを活用しながら新聞社や放送局の取材・編集・確認作業などについて調べることで、新聞社や放送局が正確な情報を伝えるために行っている工夫や努力を考察していく。教科書で大きく取り上げられている新聞社は児童にとってあまりなじみのないものであるため、学習資料として掲載されている「放送局のはたらき」を同時に取り上げることで、児童が学習する題材を自分ごとに捉えられるようにする。第５時からは、児童自身がより信頼度の高い新聞やニュース制作に取り組む。情報を集める際の注意点や、伝える内容の正確さについて考えながら新聞やニュース番組を制作する活動を通して、学習した内容を活用するとともに、情報を発信する側の視点も養いたいと考える。

＜研究主題とのかかわり＞

研究主題「自ら学び、決定し、ゴールに向かって学び続ける児童の育成」を目指し、研修に取り組んでいる。そこで今年度は、「魅力的な単元のゴールの設定」「学び方の振り返り」「放送教育の効果的な活用」の３つに重点を置いて指導を行うことにした。

【魅力的な単元のゴールの設定】

本単元では、探究が深まる中で生じる児童の自然な思考の変化に沿って追究課題を展開する。単元の前半では「なぜ新聞社や放送局は信頼度の高い情報を発信することができるのだろうか？」という課題のもとで学習を進める。メディアの工夫や努力を調べていく中で、児童の中に「自分たちもやってみたい。」「自分ならどう伝えるか。」という思いが自然と芽生えていくと考えている。

この思考の変化を受け、単元の後半では「どうすれば私たちも、信頼度の高い情報を発信できるのだろうか？」へと課題が自然に移行すると考える。実際に新聞や番組を制作・発信することを通して、「どうすれば正しく伝わるか。」を自問自答しながら主体的に学ぶ姿を目指したい。追究課題が自発的に移り変わる過程で、単に情報を受け取るだけでなく、届ける工夫や大変さについて実感を伴って理解し、メディアと適切に向き合う力を育てていきたい。

【学び方の振り返り】

児童はこれまでの学習でも振り返り活動に取り組んできたが、単元全体ではなく１単位時間内での気付きや変容の記述に留まっている傾向があった。そこで本単元では、振り返りには１枚ポートフォリオ（OPP）を用いて、学習前後の記述を並べて見返すことができるようにする。単元を通して蓄積していくことで、自分自身の学び方の変化にも気付くことができる。内容と方法の両面から自己の学びを捉え直す経験を積み重ねることは、児童の自己調整力の向上につながると考えている。

【放送教育の活用】

○１時（本時）の視聴教材（「ズームジャパン」『お祭りハシゴ事件！？～放送局の仕事～』）

活用の意図	番組特性	見方の工夫			発展的な活動
		視聴前の活動	番組視聴	視聴後の活動	
■ 児童の学習意欲・動機付けのため □ 調べ学習の素材・情報源として □ 児童の活動や表現の「モデル」として □ 児童の考えを広げたり整理したりするきっかけとして □ 学習内容のまとめや振り返りのため ■ 番組を起点に、児童自身が課題を立てる活動につなげるため □ その他	メディアとは何かについて知るだけでなく、情報を発信するまでの放送局の人々の工夫について取り上げられている。そのため、情報を発信する際に何を大切にすべきかを考えることができる。	自分たちのメディアの使用状況を知る。	全員で丸ごと視聴する。視聴メモを取る。	メディアの信頼度について考える。	・　番組視聴によって気付いたことや疑問、やってみたいことを想起する。 ・　信頼度が高いメディアと低いメディアの特徴を考察する。

○５時の視聴教材（「アッ！とメディア～@media～」『送り手の意図を伝える～編集～』）

活用の意図	番組特性	見方の工夫			発展的な活動
		視聴前の活動	番組視聴	視聴後の活動	
■ 児童の学習意欲・動機付けのため ■ 調べ学習の素材・情報源として □ 児童の活動や表現の「モデル」として □ 児童の考えを広げたり整理したりするきっかけとして □ 学習内容のまとめや振り返りのため □ 番組を起点に、児童自身が課題を立てる活動につなげるため □ その他	インタビュー映像の「使う・使わない」の基準は何か？について考えることができるようになっている。実際の報道番組の編集現場での作業が取材されており、編集は送り手の意図が込められていることについて理解を深めることができる。	前時までの学習を想起する。	全員で丸ごと視聴する。視聴メモを取る。	「メリ探」問３に取り組む。	・　「メリ探」問３に取り組み、テーマに対してどのインタビュー映像を使うのか考える。 ・　番組視聴によって「どうすれば信頼度の高い情報を発信できるのだろうか？」という課題をもつ。

※「メリ探」とは、メディアリテラシーと探究学習を組み合わせた体験型 WEB 教材。
　問３では、情報の取捨選択について扱っている。

○５・６・７時の視聴教材（「しまった！～情報活用スキルアップ～『動画で伝える技（わざ）』(1)(2)(3)」）

活用の意図	番組特性	見方の工夫			発展的な活動
		視聴前の活動	番組視聴	視聴後の活動	
□ 児童の学習意欲・動機付けのため ■ 調べ学習の素材・情報源として ■ 児童の活動や表現の「モデル」として □ 児童の考えを広げたり整理したりするきっかけとして □ 学習内容のまとめや振り返りのため □ 番組を起点に、児童自身が課題を立てる活動につなげるため □ その他	動画を作る際に必要な構成のこつ、撮影・取材のこつ、編集のこつについて理解することができるようになっている。「小学１年生に上手なそうじのしかたを説明しよう」という具体的な事例をモデルにして制作活動に取り組むことができる。	ニュース番組の制作に取り組む。	個別視聴する。	こつを生かしてニュース番組の制作に取り組む。	・　こつを活用して構成台本を作成する。 ・　こつを活用してニュース番組に必要なインタビューを行ったり背景や撮影位置を工夫したりする。 ・　こつを活用してテロップやナレーションを入れた編集を行う。

○５・６・７時の視聴教材（「しまった！～情報活用スキルアップ～『伝える　新聞を作る』」）

活用の意図	番組特性	見方の工夫			発展的な活動
		視聴前の活動	番組視聴	視聴後の活動	
□ 児童の学習意欲・動機付けのため ■ 調べ学習の素材・情報源として ■ 児童の活動や表現の「モデル」として □ 児童の考えを広げたり整理したりするきっかけとして □ 学習内容のまとめや振り返りのため □ 番組を起点に、児童自身が課題を立てる活動につなげるため □ その他	新聞を作る際に必要なコツについて理解することができるようになっている。「自転車調査新聞をつくろう」という具体的な事例をモデルにして制作活動に取り組むことができる。	新聞の制作に取り組む。	個別視聴する。	こつを生かして新聞の制作に取り組む。	・　こつを活用して記事の要約をはじめに書く。 ・　こつを活用して見出しは短く、最後に決める。

6　本時案（第１時）

メディアの特徴や信頼度に着目して課題を設定し、これまでの生活や学習、資料から得た情報を関連付けながら学習の見通しをもつことができる。

学習活動	○指導上の留意点	☆評価 ★NHK ONE for School の活用
１　めあてを確認する。	○　児童のメディア使用状況のアンケート結果を提示することで、自分たちのメディアとの向き合い方やメディアの特性について捉えることができるようにする。	
めあて：資料から気付いたことや疑問をもとに、追究課題を設定しよう。		
２　番組を一斉視聴して、気付きや疑問を共有する。	○　「ズームジャパン」を一斉視聴させ、視聴後の自由発言を促すことで、新しい気付きや疑問を広げることができるようにする。 〈予想される児童の反応〉 ・なぜメディアによって天気予報の結果がちがうのか。 ・気象予報士はたくさんの工夫をしていてすごいな。 ・多くの人が関わって情報が発信されるのだな。	★「ズームジャパン」を一斉視聴する。
３　資料を読み取り、追究課題をつかむ。	○　「どうしてギリギリまでねばって準備するの？」と問うことで、情報を正確に発信するための努力や工夫に気付くことができるようにする。 ○　「年代別メディアごとの信頼度」の資料から読み取れることを話し合い、整理することで共通点を考えることができるようにする。 〈予想される児童の反応〉 ・新聞やテレビの信頼度は高いな。 ・信頼度が高いのはギリギリまで工夫して発信しているからかな。 ・インターネットや雑誌は信頼度が低いな。 ・すぐに情報を発信できるからかな。 ○　「平成 27 年度版年代別メディアごとの信頼度」と「ドイツとイギリスの年代別メディアごとの信頼度」の資料を追加で提示することで、年代がちがっても他国でも新聞とテレビの信頼度の高さが共通していることを捉えられるようにする。	☆**発言** **振り返りシート** ・メディアの特徴について学習したことを基に、学習の見通しをもつことができている。（主）
追究課題：なぜ、新聞社や放送局は信頼度の高い情報を発信することができるのだろうか？		
４　学習の振り返りをする。	○　ポートフォリオに振り返りを蓄積することで、単元を通しての学び方の変容に気付くことができるようにする。 ○　次時の情報収集の見通しをもつことができるようにする。	

☆「十分満足できる」状況（A）「おおむね満足できる」状況（B）と判断する児童の姿

A　メディアの特徴や信頼度に着目する中で課題を設定し、これまでの生活や学習、資料から得た情報を関連付けながら学習の見通しをもつことができている。

B　メディアの特徴や信頼度に着目する中で課題を設定し、これまでの学習や資料から得た情報を基に学習の見通しをもつことができている。